

こんな時代に入所施設を問う

～入所施設の役割の再確認～

【キーワード： 入所施設・地域生活 】

所属 社会福祉法人伊豆つくし会 伊豆つくし学園 氏名 内田 哲正

1、はじめに

地域生活支援部会の取組として、一昨年はGHの現状と課題について浜松協働学舎の大橋さんに語ってもらい、昨年は賀茂障害者就業・生活支援センターの高橋さんに賀茂地区の地域での取り組みを紹介していただいた経緯があります。

今年度は、コロナ感染の影響から部会としての積み重ねた取組が十分でなかったこと等もあり、地域生活の中で、入所施設の役割について再確認するとともに、入所施設の現状や課題について私が勤務する伊豆つくし学園の事例から言及していきたいと考えます。

2、伊豆つくし学園の歴史

伊豆つくし学園は、昭和48年に伊豆南部地域で初めての児童福祉施設として誕生しました。経営形態は、周辺の自治体1市7ヶ町村による一部事務組合立という公立施設です。

なお、昭和48年という時代は、オイルショックの影響などによりコンクリート等の資材が不足する時代で、建物自体が粗製乱造という結果、雨漏りやクラック等が生じる事態が相次ぎました。

このような経緯から、学園の改築を基本とする施設整備が協議され、平成19年に一部事務組合から社会福祉法人に移行し、平成20年12月に新たな建物（成人30人、児童12人）が完成し、現在に至っています。

また、社会福祉法人に移行後、平成20年

6月には生活介護施設とGHをスタートさせ、平成28年5月に他地域に生活介護施設とGHを設立しております。

3、伊豆つくし学園の現状について

① 福祉型児童入所施設(定員12名)

現在、9歳から18歳までの児童8名が在籍しており、1名の契約児童を除いて他の7名は児童相談所による措置入所となっております。この児童たちは日中それぞれの学校に通学しており、特別支援学校下田分校2名、下田中学普通学級1名、下田中学特別支援学級1名、特別支援学校伊豆松崎分校高等部4名という内訳です。

② 経過的施設利用(2名)

18歳を迎えると児童施設を利用できなくなりますが、特例的に受け入れる制度で、国の方針として経過的な施設利用者を地域移行などで減少させていく方向です。

③ 施設入所支援(定員成人30名)

建物の構造上2階建てとなっており、1Fの2ユニットで男子21名が個室にて生活し、2Fの2ユニットに女子9名と児童が生活しています。

④ 生活介護(定員30人・実利用者33人)

施設入所支援の日中活動部門で、ウォーキングや余暇活動を行っている。

⑤ 短期入所(6床)

昨年度の実績ですと、実際に利用なされた方は65名で、利用日数にカウントとする

と 734 日と前年を 250 日超える利用となっています。

⑥ 日中一時支援

昨年度の実績ですと、実人員 80 名、利用回数で 576 回と前年を 62 回超えた利用となっています。

⑦ 在宅幼児を対象とした療育教室(毎週 1 日)

昨年度の実人員 98 名で通算 187 回、コロナ感染の影響で、前年より 122 回減少となっています。

4、いくつかの事例について

① 児童入所支援での生活と進路に関するケース

② 経過的施設利用者の進路選択のケース

③ 施設入所支援で長期間利用なされているケース

④ 日中一時利用に関するケース

⑤ 緊急一時利用に関するケース

⑥ 短期入所利用に関するケース

5、課題について

① 入所施設の役割について

② 地域生活を支えるとは